研究分科会所感

安東 孝二

東京大学情報システム本部、CAUA 運営委員

今回のCAUA第6回合同研究分科会は「Look WEST: ICTは西に学ぶ」というサブタイトルで行いました。センター運用分科会の基調講演、研究教育分科会の特別講演ともに関西より非常にお忙しい先生方にお越しいただき、関西の元気さを実感する内容をご講演いただきました。東京に居ながら関西からの刺激を体感できたのではないかと思います。また、今回は合同研究分科会ということで普段聞くことの少ない分野の話も聞くことができ、普段とは違った部分がinspireされました。

センター運用分科会基調講演は京都大学の岡部寿男先生にUPKIについてご講演いただきました。PKI (公開鍵基盤:Public Key Infrastructure) はこれからのICTには欠かせない基盤であります、まだまだ本格的な運用に踏み出せない技術でもあります。最も欠けているのは技術ではなく、運用ノウハウを含めたdeploymentに必要な情報です。岡部先生の率いるUPKIイニシアティブは、大学間連携に使われるだけでなく、大学が身をもってPKI構築を実践していくことで社会にPKIに対する新たなビジョンを提示する大きな役割も担っています。ご講演では、諸外国の状況などを含め大きな視点からプロジェクトリーダー本人から生の声で語っていただきました。UPKI当事者の「本音」を明確に聞けたことでUPKIへの理解と関心が高まり、皆さんの職場でも議論を始めていただけるきっかけとなったのではないかと思います。

研究教育分科会特別講演ではNAIST(奈良先端科学技術大学院大学)の砂原秀樹先生に、2008年度より始められる「セキュリティ人材育成プログラム」についてご講演いただきました。IT業界へ十分な数の人材を排出できていない大学ですが、特に手薄なのがセキュリティ分野です。今回のプログラムでは、関西の複数の組織にまたがり「実務型」の人材育成を行うアプローチを取られます。大学の2つの大きな役割は教育と研究ですが、「実務型」のスペシャリストを「教育」することは今まで比較的不得意ではなかったかと思えます。砂原先生の語られるこのプロ

グラムの目的とセキュリティスペシャリストに必要な要件は各大学の人材育成の将来に大きな参考になると思います。

群馬大学名誉教授の金森吉成先生には、津波デジタルライブラリの構築に関しご講演を賜りました。ICTを世の中の、社会の幸せに繋げる方法はたくさんあると私は信じていますが、この金森先生の津波デジタルライブラリはそのためにICTを最大限に活用できる分野であると感じました。2004年暮れのスマトラ島沖地震の例でも分かるように津波の脅威について認識していない人々が世界中にたくさんいます。先生がいま構築を努力されているデジタルライブラリは日本人の経験を人類共通の経験にするための貴重な活動だと改めて認識しました。

引き続き、湘南工科大学附属高等学校長の後藤宣之先生には「新しい映像配信システムの構築」のお話を頂きました。ICTはきちんとdeployしていかないと意味がないのですが、先生の学校のシステムはe-learningの手段として、生徒の学校生活の一部としてきちんと機能しているシステムであり、将来に繋がるよい手本となりました。

最後に、図書館分科会特別講演として慶應大学理工学メディアセンター事務長の市古みどり先生には、先生の開発されているe-LearningシステムKITIEとそれを使った講義の事例をご報告いただきました。ライブラリアンの力をうまく活用すればここまで出来るという事例です。インターネットやWebに代表されるICTの普及と相容れないと思われがちな図書館の世界ですが、ライブラリアンにICTという強力な武器を持たせればこれだけ元気になれることを実感しました。

合同研究分科会全体を通して見るとバラエティに富んだ内容であり、最後まで興味を失うことはありませんでした。合同研究分科会のメリットでしょう。懇親会も本来の懇親という意味で盛況だったと思います。インターネット全盛の時代だからこそ実際に人と会って話をする場所が貴重になっています。CAUAがセカンドライフに移行することなく、このような形で社会に貢献し続けること

を希望すると共に、参加して頂いた方々の心に少しでもなにか inspire されたものが残っていることを期待しています。